

新専門医 に聞く

平成25年度に新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける情熱は大きく、これからの近畿地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。

今回は多数の先生が新専門医となられたこともあり、紙面の関係上次号と2回に分けて掲載させていただきますことを御了解いただきますようお願いいたします。

河野 悌司 森之宮病院



この度リハビリテーション科専門医の一員として認定いただきました。私は、平成13年に大阪大学医学部を卒業し、神経内科医として主に脳卒中を中心とした神経疾患の診療に携わってまいりました。平成21年より現在の勤務先（森之宮病院）へ赴任し、リハビリテーションの業務に従事しております。回復期の患者さんを担当することで、急性期診療の時代には持ちえなかった視点を獲得ことができ、脳卒中の機能予後や二次予防対策について多面的なとらえ方ができるようになりました。また、神経リハビリテーション研究部での神経損傷の回復に関する臨床研究活動にも加えていただき、日々貴重な経験をしております。

リハビリテーション医学は様々な領域が融合している学際的なフィールドであり、また他のどの臨床医学分野よりもチームアプローチが重要な領域であると感じております。今後研鑽を積み、担当している患者さんの診療を通じて少しでも社会への貢献ができればと考えておりますが、未熟者でもあり、諸先輩方からのご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

寺田 央 十条武田リハビリテーション病院



始めまして、この度専門医の末席に加えていただきました十条武田リハビリテーション病院の寺田と申します。私の医師としてのキャリアは、胸部心臓血管外科医として始まりました。毎日手術や術後管理などに追われる生活で、患者様やご家族とお話する機会も少なく術後の障害に関しては「後遺症です、後はリハビリテーション次第です。」と説明しておりました。ある時偶然障害を持ったまま自宅に帰られた患者様と接する機会があり、病院とは違う生き生きとした姿を目の当たりにしました。それを機会に対象臓器だけをみる医療から、「患者様、患者様のご家族、生活環境など」を理解して治療する医療に興味をもつようになりリハビリテーションの世界に飛び込みました。

これからも患者様の「生活の質の向上」の為に、安全で先進的な質の高い医療を提供できるように心がけていきます。又、出来るだけ患者様とご家族様のご希望を聴講し、一人でも多くの患者様が適切な時期に、一番良い状態で自宅に帰っていただけるように努力してまいりますのでご指導ご鞭撻の程宜しく願いいたします。

渡邊 学 大阪府立急性期・総合医療センター



このたびリハ医学会専門医に仲間入りさせていただきましたので宜しくお願いいたします。昭和51年の大学卒業以来、脳循環・代謝の病態生理の研究や脳卒中の急性期医療にたずさわってきました。その間、患者さんが過ごす何十倍、何百倍という慢性期の治療に関してはなおよさがちになっていることに自責の念に駆られていました。そこでH14年日本リハ医学会に入会させていただき、また当医療センターとの統合が決まっていた府立身体障害者福祉センターにH18年に職に就きました。いかなる専門医にも縁の遠かった私ですが、リハ医学会専門医こそは私の目指す、臓器ではなく「ヒト」を観る医療にふさわしい資格と考えチャレンジさせていただきました。現在は高次脳機能障害を主体に診療にたずさわっておりますが専門医になった限りは幅広いリハの分野で少しでも貢献させていただきたいと考えておりますので、今後のご指導お願いいたします。

丸本 浩平 兵庫県立リハビリテーション西播磨病院リハビリテーション科



これまで私は老年内科医、神経内科医として臨床経験を積んでおりましたが、薬物治療の限界とリハビリテーション（以下リハ）の重要性を肌で感じたため、リハ科に転科しました。そして兵庫医科大学病院リハビリテーション部にてリハ科専門医のための研修を受ける機会を頂きました。最初はリハリ科医が何をすれば良いのかわからず、戸惑いもありましたが、日々の臨床やセミナーなどの教育体制に後押しされ、徐々にリハリ科医的な考え方が身についていったように思います。現在は兵庫県立リハビリテーション西播磨病院にて回復期病棟で脳卒中患者を障害者病棟でパーキンソン病を含めた神経変性疾患患者を対象としてリハリを行っております。今後もどんどん進歩していくリハ医学の知識をupdateさせながらも、地域住民に寄り添えるリハ医療にすこしでも貢献できるように精進していこうと思っております。引き続き御指導ご鞭撻の程よろしく願い申し上げます。

**鉄村 信治 医療法人健和会奈良東病院**

この度、リハビリテーション専門医の認定をいただきました、鉄村信治（てつむらしんじ）と申します。平成7年に大阪医科大学を卒業し、整形外科医として勤務してまいりました。各関連病院にて勤務の後、現在は回復期リハビリテーション病棟にてリハ科医師として働いております。当院は重症、高齢患者さんが多く、治療に難渋するケースも多々あります。しかし、当然ではありますが、今後ますますニーズが増える高齢者医療にはリハビリテーションが不可欠であります。質の高いリハビリ提供を目指し、またリハビリテーションの重要性を他科の医師に周知していく事が私の役目であると考えております。まだまだリハ医としては半人前ではありますが、さらなる研鑽を重ね地域医療に貢献出来るよう頑張りたいと思います。今後ともご指導をお願い致します

**西村 行秀 和歌山県立医科大学**

和歌山県立医科大学の西村行秀と申します。現在、同大学でリハビリテーション科および整形外科医師として勤務しております。整形外科の専門医でもあり、もともと機能再建や運動器に興味を持っていたこともあり現在に至っております。もちろん局所としての疾患や専門知識の重要性も大切なことですが、全身としての人間らしく活動できる機能の重要性ももっとも大切であると考えております。この全身という人間の機能を最善に導くことができるよう、局所からしっかりと学び極めて行きたいと思っております。今回、日本リハビリテーション医学会専門医を頂いたことで、リハビリテーション医学会に少しでも貢献できるよう研鑽を積み、努力をしたいと考えております。皆様からご指導賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**池田 巧 京都府立医科大学附属病院リハビリテーション部**

私は京都府立医科大学を平成5年に卒業し、運動器疾患を中心に臨床や研究に携わってきました。とくに脊椎脊髄疾患の保存療法、手術療法およびリハビリテーション（リハ）を専門としております。治療法の進歩や低侵襲化により、患者の早期回復、早期社会復帰が可能となった一方で、残存した重度の機能障害への対応が課題として残っていました。平成18年から大学に異動となり、この課題に挑戦すべく広い視点を持ちリハ部での活動を開始しました。脳・脊髄疾患由来の重度痙縮に対する治療や、椎間板や骨再生に関する基礎的研究も進めております。今後は、基幹病院に勤務するリハ専門医としての役割を果たしてだけでなく、新専門医制度への移行準備、研修プログラムの作成など重要な案件に対しても積極的に取り組んでいきたいと考えております。リハ医療と医学の発展に少しでも貢献できるように頑張る所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

**内山 侑紀 兵庫医科大学ささやま医療センター**

この度、リハ専門医を取得させて頂きました、内山侑紀と申します。私は臨床研修医修了後、兵庫医科大学リハ科に入局し、大学病院と一般の回復期病院を経て、現在は兵庫医科大学ささやま医療センターにて地域を担う急性期～回復期～維持期のリハビリに携わっております。もともとは内科医を目指していましたが、疾患に囚われず、患者さんを広い視点から診たいという思いから、この世界に飛び込みました。リハビリでは疾患だけでなく、障害や社会的背景にまで切り込んでアプローチを行っていくところや、またチーム医療としての多職種との連携にとっても魅力を感じています。

今後は、さらに「型にはまらないリハビリ」をモットーに、さらなる臨床能力の向上とともに、様々な研究活動にも興味をもって取り組んでいきたいと考えております。皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど頂けますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

**上田 昌美 近畿大学リハビリテーション医学講座**

近畿大学リハビリテーション医学講座の上田昌美です。平成12年大学卒業と同時に神経内科医局に入局し脳血管障害や変性疾患、免疫性神経疾患など多彩な疾患を経験させていただきました。その中でリハビリテーションの重要性を感じるうちに、魅力にとりつかれ、リハビリテーション医学に足を踏み入れました。恥ずかしながら専門医試験の勉強を通して、初めて、自分の知識不足、認識不足に気づかされることも多くありました。今回、リハビリテーション専門医を取得することができ、やっとリハ医としてスタートラインにたったと痛感しております。各科のスペシャリストが在籍する大学病院での勤務というチャンスを生かし、今後たくさんの症例を経験し、患者さんはもちろん他科の医師、コメディカルに信頼される専門医を目指して、研鑽を積んでいきたいと思っております。

これまでご指導いただきました先生方に感謝いたします。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

**藤井 優子 愛仁会リハビリテーション病院**

このたび、リハビリテーション科専門医の認定をいただきました藤井優子と申します。平成19年に大阪市立大学を卒業し、済生会中津病院で初期研修を修了後、大阪医科大学リハビリテーション医学教室に入局しました。その後、大阪医科大学附属病院、大阪府立急性期・総合医療センター、愛仁会リハビリテーション病院で多くの症例を経験させていただきました。ご指導いただきました先生方に、あらためて感謝申し上げます。今回専門医に認定していただき、リハ医としての第一歩を踏み出したと身の引き締まる思いです。まだまだ知識も技術も未熟であることを痛感する毎日ですが、患者様のQOL向上に少しでも貢献できるよう、研鑽を積んでまいりたいと思います。御指導御鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

**田崎 智子 兵庫医科大学病院リハビリテーション部**

このたびリハビリテーション専門医に加えていただくことになりました、兵庫医科大学病院リハビリテーション部の田崎智子と申します。平成21年に臨床研修医から兵庫医科大学リハビリテーション医学教室に入局し、道免和久先生をはじめとする諸先生方のご指導のもと、兵庫医科大学病院、ささやま医療センター、西宮協立リハビリテーション病院で、急性期から慢性期にわたる多種多様な疾患について勉強させていただきました。本年7月から兵庫医科大学病院のスタッフとして働くことになり、身の引き締まる思いです。リハ医として更なる研鑽に励む一方で、診療、教育、研究に微力ながら尽くしてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

**嶋 聡子 愛仁会リハビリテーション病院**

この度、リハビリテーション科専門医に加えていただくことになりました嶋聡子と申します。市中病院にて初期研修を終了後、2008年より大阪医科大学総合医学講座リハビリテーション医学教室に入局し、現在愛仁会リハビリテーション病院に勤務しております。その人が再びその人らしい生活を送るために、障害の程度や環境に応じてリハビリテーション医療を提供できる仕事をしていきたいと思っております。全身管理に始まり退院後の生活環境調整までと広い範囲であり、多職種とのチーム医療の重要性を実感しております。これからも諸先生方に御指導いただき、研鑽を積んでいきたいと思っております。今後とも御指導、御鞭撻のほどなにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

**辻野 精一 大阪府立急性期・総合医療センター**

大阪大学で学位を取得し神経内科専門医に認められたのち渡米し、コロンビア大学で3年半、帰国後も国立精神・神経センター神経研究所で9年間、遺伝性神経・筋疾患の遺伝子解析および遺伝子治療の研究に携わり、その後は医薬品医療機器総合機構および医薬基盤研究所の研究振興部において研究費配分に関わる行政職として勤務し、自分も両親も歳をとったなあと自覚するこの頃になりようやくリハビリテーション医療の重要性に気付くに至り、主として回復期リハビリテーション病棟専従・専任医としてその臨床に邁進すること6年、この度リハビリテーション医学会専門医に認めていただきました次第です。今後益々精進しこの分野の発展に貢献したい所存ですのでご鞭撻のほどどうぞよろしくお願ひいたします。

第35回日本リハビリテーション医学会 近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医 生涯教育研修会開催にあたって

第35回リハ医学会近畿地方会学術集会
会長 平林 伸治
大阪労災病院リハビリテーション科

2013年9月21日(土曜日)に第35回日本リハビリテーション医学会近畿地方会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会を大阪市中之島にある、大阪大学中之島センターにて開催させていただきます。

開催時間は13時よりとし、土曜日に勤務されている先生、ご遠方の先生にも参加していただけるよう、準備させていただきます。

生涯教育研修会では、パーキンソン病、経管栄養(胃瘻)、膝関節の変性疾患をテーマに3名の講師の先生をお招きします。大阪保健医療大学一センター長 阿部和夫教授には「パーキンソン病に対する運動療法—運動症状および非運動症状に対する効果」について、西宮市立中央病院一院長 根津理一郎先生には「内視鏡的胃瘻造設術(PEG)を用いた栄養管理の現状と問題点」を中心として栄養からトラブル問題について、近畿大学医学部リハビリテーション科一福田寛二教授には「運動器リハビリテーションの最近の話題」についてご講演を賜わる予定です。いずれの講義におきましても、リハビリテーション診療や研究に役立つものと確信致しております。

一般演題は13時から開始の予定です。多数の先生方にお越し頂き、活発な議論が出来ますことを切に願っております。会員の先生方 宜しく御願ひ申し上げます。